

## 【事例報告】

「未来を創る私の思い ～やれることは全部やります～」  
「古賀市アートバス」や中学校の「朝勉&朝弁」に取り組んでいるアーティスト  
坂崎 隆一氏

坂崎です。よろしくおねがいします。

アーティストということで基本は現代美術の作品を作っております。近いところでは、福岡市美術館、今、閉まっておりますが、閉まる前に「歴史する！」という現代美術に特化した展覧会をしました。そのような作家業と合わせて展覧会の会場をつくったり、他にはお店や住宅を改造する建築関係の仕事したり、印刷物をつくったり、いろいろなものを作っております。空間全般を、地球規模でいろいろやりたいなと思っております。

「朝勉&朝弁」という授業に関してはもういろんなところでお話させていただいておりますので、「聞いた！」という方もいらっしゃるかもしれませんが、少しだけ違うバージョンでお話しますので、よろしくお願いします。

「朝勉&朝弁」というのは、中学校でやっている授業ですが、古賀東中学校という学校で、生徒数は372人という小さな学校です。各学年が、今4クラスで、右側の資料にあります、あいさつ、感謝の心、時間厳守、環境美化という言葉をもットーに掲げております。

小さな学校ですが最近はとっても有名人を排出しました。それはラグビーの日本代表で活躍しています福岡堅樹君です。古賀東卒業生で、僕も家が100mしか離れてないので非常によく存じておりますけど、もう超ナイスガイですね。卒業生です。

「朝勉&朝弁」をどんな風にやっているかということですが、きっかけというのがもう5～6年前になります。私の上の子が通っている頃のことですが、凄まじく学力が低かったのです。中学生なのに宿題がないとか、一体どうしたことだろうと思っていましたが、次に下の子が通うようになって学校の様子はあまり変わってないなと思いました。そこで先生方と話したときに、何か手伝えることがあったら手伝いたいなと思っていたところでしたので、生徒がまるで勉強しないとか、いろんな問題があった中で「朝活をやってみませんか」と提案しました。専門学校でしばらく仕事をしていたときの生徒と久しぶりに会った時のことですが、「朝活で英語を勉強している」というわけです。天神の近くで働いていて仕事に行く前に30分から1時間英語を勉強しているというわけです。僕からすると、「え、お前が英語を？」という子だったのですが「英語を喋れるようになった」と聞いてびっくりして、「じゃあそれを中学校でやったらどうだろう」ということで先生に提案して、朝、学習室、空いている教室があったのでそこを使わせていただいて、まず朝活、勉強するだけの活動を始めました。週2回、7時半から8時10分ぐらいまでですが、目的としては“学習のきっかけづくり”とか、朝の“学習の習慣づけ”とか、そういうことを目的に勉強をしています。先生方がプリントを用意してくださったりしているので、それをひたすら学習しているという感じです。

始めてしばらくした頃、なんとなくグレーでなんかどんよりしている感じで、生徒たちも「おはよう」といっても返事をしないし、大丈夫なのかなと思って何人かの生徒に話を聞きました。元気がなかったり覇気がなかったりで、びっくりするほど元気がありませんでした。聞いてみると朝食を食べてない生徒が結構多かったのです。「なんで食べないのだろう」という感じだったので「食べたほうがいいんじゃないの」というふうに聞いたら、「食べたいのは食べたいけども、家に食べる習慣がないから食べないんです」という、僕にとっては相当びっくりすることでした。そういう生徒がいましたので、じゃあ何か簡単に食べられるもの、準備できるものはないかなと思って、一時期、菓子パン的なものを提供して食べさせていました。生徒には好評だったのですが、なんとなく温度感が低いわけですね。なんか“菓子パン”を食べているだけという感じがしました。

そこで何かないかなという時に、それが朝弁のスタートのきっかけになるのですが、近所にお米が沢山ありました。農村部でもあるので生産者がたくさんいらっしゃるって、お祭りの時なども景品で山のようにお米が出されます。それはもしかしたら使えるだろうと思って、いろいろな農家の方に相談しました。そうしたら「だったらどうぞ！」というふうに快諾していただき沢山提供してもらいました。

米を手に入れたのはいいけど、自分がおにぎり作るわけにはいかないし、規則的にもそれはまずいと思ったので、なんか無いかなと考えました。

地元の農産物をいろいろ加工して販売されている『まんま実一や』という団体があって、そこのおばちゃんたちに相談にいきました。

最初は「タダで作って欲しい」と言ったら、「ふざけるな！」みたいに随分怒られました。

「わたしたちは仕事でやっている、あなたはボランティアだろうけど、わたしたちは仕事だよ」ということで怒られましたが、結局、一個30円で引き受けていただけました。

このようなことで朝弁のおにぎりは、地域の生産者の方から米を寄付していただいて、まんま実一やさんの協力で一個30円で作っていただくこととなりました。

資料の一番下に財源と書いていますが、ここは結構30円をどうやって捻出するかとか、スープも作ったり、といろいろお金がかかるわけです。どうしようかなという時に、PTCAのOB会があって会費制の飲み会ですが、会費がもともと4000円ぐらいだったのが、その年から急に6000円に値上がりして（笑）、一部の先輩方からはカツアゲ？というふうに言われましたが、勝手に会費が集まってくるというやり方ですね。

その他に職員室で先生方から寄付していただいたり、生徒会の方でいろんな活動があるときに寄付をしてもらったり、という感じでお金が集まってくるので今の所、補助金などを申請したりする必要もなく運営しております。

お米に関しては本当にありがたいことに今までお米が足りなくて、といったことが一回もありません。スープは地元の農家の方が「小松菜で良かったらいくらでもやるから」と提供してくださって、冬は特にスープが大人気です。

こんな感じで2013年の9月から朝勉&朝弁というふうに行ってきました。

どんな雰囲気かというと、生徒たちは勉強した後におにぎり食べたい人は食べるってことです。大変楽しそうで、生徒たちからも「一限目から頭がスッキリしてよかった」とか、「宿題が出来た」「マジでよかった」とか、いろんな評価をいただいています。

生徒たちにとって、学校は古賀のはずれにあって、高校進学すると結構遠いところにあるので、早起きを習慣化するというのが一つ目標でしたが、その点にも機能的に対応できているから“いいかな”と思っています。

どんなことをやったかというと、実は地域コミュニティで中学校の先生をしていた人やPTCAのOBの方とか、在校生とか卒業生の保護者とかに集まっていただくわけですが、最初の頃は実験で、「ボランティア募集です」とか言って「何曜日来れますか」とやってみましたが、僕がやりたいのは組織運営じゃないと気付いて途中で連絡することを止めました。「来たけりゃ勝手に来てください」というふうになりました。来たい人はくるし、来ない人は自然とフェードアウトしていくのですが、やり方としてはそれがいいな、と思っています。十数人の集まりですが、それを管理し始めると僕の仕事がなんか管理が主になっていって、「それは聞いてませんでした」とか「どうしましょう」「こうしましょう！」という仕事が増えるのでなるべくそこを避けるようにやっています。

古賀市内は全部PTCAと言って、PTAにC（コミュニティのC）が加わって、それで運営をしています。

僕らの所に関しては、学校あるいは教育委員会からというよりも僕の方から提案して、こんな活動をやりたいと相談して実現したが、きっかけとして少し特殊かなと思っています。

学力向上支援委員会という委員会を作って、そこで朝勉&朝弁ともう一つ、学習塾をこういう集会場を使って開いています。今、おそらく35人から40人ぐらいの生徒がいますが、きっかけは校区内に学習塾がなくて、塾に行こうと思うと保護者の人たちの負担が結構大変になります。送り迎えとか。それで最初は送り迎えをするボランティアを考えて行政の方に相談したら、保険が相当難しいということになって、だんだん面倒になってきてしまって、「もういいです自分で塾を作ります」という勢いで言ってしまって今に至っています。月曜と木曜に週二回行っていて、集会場をタダで使わせてもらって、卒業生の大学生や社会人たちが勉強を教えにきてくれています。僕はよく「勉強教えてるんでしょ!」と言われますけど、僕は子供に勉強を教えらるほど勉強してないので、「僕は無理です」と言っています(笑)。「現地で鍛えた英語ぐらいしか使えません」と言っています。

映像の端っこに「活躍できるシーンの創出」と書いていますが、勉強できない、僕のような人間は、だいたい地元のローカルなところでいうと消防団に吸収される傾向にありますね。

消防団で火消し活動とかトレーニングなどで活躍するのですが、勉強が出来る子達は意外に消防団には誘われません。地元でも全然活躍する機会がないというか、「なんかいたよね!」と認識はされますが、そんな感じなので“勉強ができていたやつを呼ぼう”というのが僕の作戦で、「消防団に君は入れそうにないから、勉強を教えにきなさい」といって集めると、その子達が何人か連れてきて、引き受けてくれたというところです。

塾は月額4千円でやっています、余ったらお金は返すことにしています。

先月などは2千円返していますので半額で勉強できるわけですね。成果的には全然勉強できない子もいますが、この前、一人の3年生の子が、よく勉強していたので予想はしていましたが「偏差値70です!」と言っていました、すごいなあと思いました。

そういう子もいます。これも学校の先生方にすごく協力していただいて、非常勤の先生は17時以降自由ということで勉強教えにきていただいたり、学校とか地域コミュニティとかと共同でやっているところが特色です。

もう一つの活動は、アートバスという、これは古賀市の文化課と一緒にやっている事業で、もう8年目ぐらいになります。

平成21、22年頃、少し記憶が曖昧ですが、なにかの話し合いのときに決して脅したわけじゃないですが、「建物を立てる運動をするのがいいですか」と持ち掛けたところ、行政では「それは困る!」という話だったので、「ではバスを貸してもらえませんか」といったら「まあどうぞ!」ということで実現しました。

何をしているかというと、古賀市内とかに近くに美術館博物館が無いので、福岡市内の美術館に子どもたちを連れて行っています。美術館や博物館には、超一流の作品と一流の学芸員がいるわけで、そういう人たちがいろいろ説明してくれるというところで子どもたちにはいい経験になっているかなあ、というふうに思います。

その他には作家の話を直接聞けることもあり、あと日頃は緑の風景が広がる田舎にいますので、たまに福岡市内にある美術館につれて行くと、みんな都会であることにたいへんびっくりしますが、それもいいのかなというふうに思っています。

どんなメリットがあるかというと、ここに書いている通りで参加者の小中学生はこういう超一流の作品が見られるし、レクチャーも無料で聞けるし、美術館に初めていく子もいるわけですね。そういうメリットがあり、また手伝ってくれているボランティアの大学生とか院生には自身のスキルアップに役立っているかなと思っています。

それともう一つ面白いことは、手伝っている学生たちがこのときはじめて現実に直視することとなり、アート専門職以外の進路も考え始める機会にもなります。例えば、「俺には、この仕事は無理だわ」と知ることになる、これも結構役に立っているかなと思っています。

行政の方のメリットとしては、専門職の職員がいなくても、僕がたまたま仕事柄、美術館の仕事を多く行っており学芸員の方たちと仲良くしているので、ギリギリのスケジュールで申し込んだり、「こんな感じでやっていいですか」と、わりと簡単な手続きでこの事業を運営しているということが良いようです。あとは凄まじく僕の人件費が安いという（笑）こともウケけています。

成果としてはリピーターとして小中学生で、毎年来ているという子もいます。大学生ではアート NPO で今すごく大活躍をしてる子がいたり、一般のボランティアを募集したら毎回来て頂いているという方も今4人ぐらいおられます。またこの人達もこれからいろんな事業を手伝ってくれるかなと期待しているところです。

結構面白かったのが北九州市立美術館です。フランク・ステラといういろいろ議論をよんだ数億円の作品はすごくいい作品で、これを見に行きましたが非常によかったと評判でした。

しかし距離が遠かったので、30人ぐらい連れて行っただけの6〜7人がバス酔いして何も見れなかったという事故も発生しています（笑）。それでその後、北九州は行かないことにしました。

いろいろな活動をしていると、「何でそんなことをしてるんですか」と聞かれますが、僕の中では作品を作ることと、今の事業を運営させてもらったり、ボランティアのようなことをやっていることが、案外同じ方法でやっているというか、同じ文脈でやっているわけですね。さらにこれが僕がすごく好きなマルセル・デュシャンというアーティストの作品ですが、これはちゃんとした作品です。自転車の車輪が椅子についているというこの「なんだこの組み合わせは？」というふうにも見えますが、僕にとっては事業を運営しているとき、あるいは、設計するときと似た感覚というか、異なるものをくっつけると意外と面白いものになる、というところが自分の作品だったりします。

要はこういうことです。

「芸術っていうのは手段を通して社会を少しずつ変えていく」と、いってみれば社会という物自体がアーティストにとっては素材であって、そこにいろんな自分がやりたいことを加えていくというか、そういうちょっと面倒ではありますが、そういうふうと考えているところが僕の中にもあって、拡張された芸術概念という言葉がありますが、僕の中で活動や作品を作るということはこういうところにつながっているのかなというふうに思います。

それから、今の仕事をはじめる少し前の話です。先ほど西南学院大学の方はフィリピンの話をされましたが、僕はインドネシアに行っていました。

最初は旅行で行きましたが、この前地震があったロンボク島というところで、すごい田舎ですが僕がいきはじめた10数年前、子どもたちはほぼ素っ裸でした。学校にも行ってないという状態で、「何かできることないかな」と思って、5〜6年の間、毎年1〜2回行って鉛筆とか服を子どもたちに持って行きました。一緒に写真撮ったりして、その写真展を福岡のソラリアでさせていただいたりしました。ところがこのインドネシアはご存知の通り、その後ものすごく経済発展して、今は多分、村の子どもたちもみんな学校に行っているし、立派な制服をきて通学していると思います。

それを見たときに、僕の周りはそう変化してないけど、アジアの国々はすごい勢いで変化していて、日本にいと未だにアジアのトップリーダーのような感覚になりますが、「果たしてそうかな?」「ずっとこのままいけるのかな?」と僕は心配になってきます。そこで学校や自分の地域社会で「何か出来ることはないかなあ」というふうに思いたったところです。

そんなこんなでインドネシアには、学校の授業を初めてから5〜6年は行っていません。

たまにSNSなどを通じて連絡すると、恐ろしいほど経済発展しているという感じです。そういうのを見て僕は今あたらしいミッションを考えながら活動しているところです。

非常に早口で喋ったのでわかりにくかったかもしれませんが、概要としてはこういうところです。以上です、ありがとうございました。

藤原氏 「いやありがとうございます、坂崎さんの話で印象的だったのは、なにかできないかなっていう、その発言がすごいなと思ったんですけども、それはもう小さいころからなんですか？その発想というのは」

坂崎氏 「多分、高校ぐらいまではもう全然いい生徒じゃなくて、教室にも入れてもらえなかったぐらいなので、全然そんなことはないですけど、僕はもともと熊本出身なんです。25年ぐらい前に古賀の今のところに引っ越してきて、最初、全く役立たずなやつでしたが、地域の人達はすごくよくしていただいて子供二人もその地域で無事に育てることができました。そこで、なんか恩返しをしなければ、というか、なんかできることあるんじゃないかなという気持ちがずーとあります。」

藤原氏 「ありがとうございます。ちょっと坂崎さんの何か出来るかなというのを見習って、この次は皆さんでお話したいと思います。ありがとうございました。」